

救急救命士学科

科目名	数学・物理学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Mathematics・Physics			総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	土	時 限	5・6

担当教員	植田 重幸	実務者経験	
------	-------	-------	--

学習内容	公務員採用試験に対応できるための、数学分野及び理科(物理)分野の基礎について、その理解を進める。
到達目標	高校までの数学を復習しながら公務員(就職)試験に合格するレベルの理解が出来る。

準備学習 時間外学習	講義終了後の復習は各自で必要
使用教材	TAC数学・数的推理、プリント資料等
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	10月3日	公務員採用試験 概要 ガイダンス	公務員採用試験に向けての学習の進め方 問題の出題傾向等に関する説明等
2	10月3日	整式の計算	式の項、係数、次数、同類項、式の整理等に関する説明 同範囲のテキスト演習問題の解説および演習解説
3	10月31日	乗法公式	多項式の展開、乗法公式の利用 同範囲のテキスト演習問題の解説および演習解説
4	10月31日	因数分解	共通因数、因数分解の公式利用、複雑な因数分解 同範囲のテキスト演習問題の解説および演習解説
5	11月14日	平方根の性質、有理 化、計算	平方根の基本性質、有理数と無理数、分母の有理化等 基本的な計算問題演習と解説
6	11月14日	平方根を含む総合計算 問題、二重根号	分母の有理化を伴う計算問題、 二重根号のはずしかた等
7	11月28日	連立方程式、二次方程 式①	連立方程式の解法 二次方程式の解法：因数分解、解の公式利用等
8	11月28日	連立方程式、二次方程 式②	同 文章問題への利用 同範囲の演習問題の解説および演習解説
9	12月12日	一次関数とグラフ	グラフの傾き、切片、方程式との関係等 同範囲のテキスト演習問題の解説および演習解説
10	12月12日	二次関数とグラフ	基本形、一般形、標準形の特徴と性質 方程式との関係等
11	1月9日	関数とグラフの利用	判別式の利用と x 軸との交点について 解の公式と虚数についての説明
12	1月9日	二次関数の最大・最小 値	二次関数の最大・最小値 定義域のある場合の最大値、最小値の求め方等
13	1月23日	加速度運動 物体の落下運動	加速度運動と物体の移動距離等 自然落下運動、水平投射、上方投射
14	1月23日	電気回路	オームの法則の利用 回路中の全抵抗、全電流、部分電圧等の求め方等
15	2月6日	終講時試験	

救急救命士学科

科目名	生物学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Biology			総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	土	時 限	5・6

担当教員	井上 努	実務者経験	
------	------	-------	--

学習内容	公務員・社会人として求められる一般知識が習得できる。
到達目標	公務員試験の生物分野で出題される内容を習得し、公務員試験が解けるようになる。

準備学習 時間外学習	配布されたプリントについて、事前に目を通しておく。
使用教材	プリント配布
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験で評価する。
------	------------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	4月25日	細胞	細胞小器官の構造、はたらきについて学習する。 細胞の構造に関する専門用語を理解し、説明できる。
2	4月25日	細胞	細胞小器官の構造、はたらきについて学習する。 細胞の構造に関する専門用語を理解し、説明できる。
3	5月23日	光合成	植物の葉緑体の特徴、光合成のしくみについて学習する。 光合成に関する専門用語を理解し、説明できる。
4	5月23日	光合成	植物の葉緑体の特徴、光合成のしくみについて学習する。 光合成に関する専門用語を理解し、説明できる。
5	6月20日	血液	血液の組成、循環について学習する。 血液に関する専門用語を理解し、説明できる。
6	6月20日	血液	血液の組成、循環について学習する。 血液に関する専門用語を理解し、説明できる。
7	7月18日	恒常性 (ホメオスタシス)	神経系、ホルモンについて学習する。 恒常性に関する専門用語を理解し、説明できる。
8	7月18日	試験	試験
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	文章読解(国語・英語)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Reading Comprehension			総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水	時 限	5・6

担当教員	南 雅子	実務者経験	
------	------	-------	--

学習内容	公務員、社会人として求められる一般知識の養成を通して基礎学力をつけていき、様々な文章読解問題を解きながら、その解説授業の中で力をつけていく。
到達目標	文章読解問題に対応できる基礎力をしっかりつけた上で、多くの問題を解き問題解法のために知っておきたい大切な知識をつけていくようにする。

準備学習 時間外学習	一般許容問題を理解していくために、各自がこれまでの言語の基礎知識を見直すことが望ましい。
使用教材	プリント教材
留意点 備 考	基礎知識のための配布資料などを各自まとめていくことを勧める。

成績評価	終講義試験
------	-------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	10月7日	文章読解 1	文章読解問題/文法問題/一般常識問題/四字熟語(1)/英語長文問題 公務員教養試験における文章読解分野の概要をつかむことを目標とする。
2	10月21日	文章読解 2	現代文(内容把握問題)/四字熟語(2)/頻出英単語(国際情勢)/揭示表現/就職教養英語問題 現代文の内容把握問題および英語の教養問題に慣れることを目標とする。
3	11月4日	文章読解 3	現代文(空所補充)/漢字問題/四字熟語(3)/英語長文問題/頻出英単語(環境問題)/英語ことわざ 現代文空所補充問題の練習、基礎的な言語問題を理解することを目標とする。
4	11月25日	文章読解 4	現代文(整序問題)/よく使う表現/言語能力試験/英会話問題/頻出英単語(福祉など)/英文法 現代文整序問題の練習、英会話に関連する英語問題を理解することを目標とする。
5	12月16日	文章読解 5	総合演習問題(内容把握、整序問題、空所補充、漢字、文法、英語長文)/英語空所補充問題 総合問題を解くことにより、問題全体を把握して取り組むことができることを目標とする
6	1月13日	文章読解 6	SPIの問題/国文法(助詞、助動詞、接続)/グループワーク(英会話表現練習)/TOEICの英語問題 発表練習をグループですることにより、英会話の様々な表現を学ぶことを目標とする。
7	1月20日	文章読解 7	文章読解/漢字問題/四字熟語/敬語、謙譲語/英文法一空所補充 試験対策学習をおこなうことにより、これまで学んだ基礎知識の定着を目標とする。
8	1月27日	文章読解 8	文章読解試験/試験終了後問題の解説 試験後の問題解説を一緒に行うことで、重要ポイントの見直しと知識の定着を目標とする。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	教育学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Pedagogy			総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	木	時 限	5・6

担当教員	近藤凜太郎	実務者経験	
------	-------	-------	--

学習内容	社会現象としての教育を分析し、教育活動と社会との関連を読み取る。
到達目標	これまで受けてきた教育さらには現代社会を批判的に問い直し、一市民として社会の中で生活する力と洞察力を身につける。

準備学習 時間外学習	特に教育に関するニュースなどを把握しておく。
使用教材	授業内でプリントを配布する。
留意点 備 考	ただ講義を聞くだけでなく、自身の経験に結びつけて考察・復習し、主体的に授業に参加すること。

成績評価	期末試験で評価する。
------	------------

回	月 日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	6月4日	日本の教育制度	現代日本の教育制度を概観し、教育事象を考えるための基礎的知識を身につける。
2	6月4日	社会の不平等と教育	学校教育と社会的不平等の結びつきについて学び、教育を批判的に捉える視点を獲得する。
3	6月25日	ジェンダーと学校教育	社会的・文化的な性別（ジェンダー）にもとづく差別問題と学校教育の関係について学ぶ。
4	6月25日	子どもの貧困	子どもをとりまく貧困問題の背景と、学校教育との関わりを考える。
5	7月30日	社会教育と生涯学習	社会教育・生涯学習政策の歴史を概観し、学校外の学びを公的に保障する意義を考える。
6	7月30日	女性問題学習	女性を主体とする社会教育実践の歴史から、女性差別の撤廃に向けた学びのあり方を考える。
7	9月3日	メディア・リテラシー	マスメディアが発信する情報や表現について批判的に捉える視点を身につける。
8	9月3日	まとめと試験	全体の振り返り、および筆記試験を行う。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	心理学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Psychology			総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月	時 限	5・6

担当教員	瀬古 文	実務者経験	2015年4月～現在 教育機関や医療機関に所属 心理相談・助言・指導および心理アセスメントに従事
------	------	-------	---

学習内容	救急救命士は緊迫した状況の中で冷静な判断を求められることが多い。人のこころを理解することは職業場面だけではなく、生きていく上でも自己理解や他者理解につながり、有意義であると考えられる。人のこころをさまざまな視点から学び、理解を深める。
到達目標	①心理学に関する基本的な仕組みや働きを修得する ②自己理解や他者理解につなげる

準備学習 時間外学習	配布プリントでの復習
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	ワークを通して、体験的な学びが修得できると望ましい

成績評価	筆記試験
------	------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	10月5日	「こころ」とは何か 心理学で何を学ぶのか	「こころ」の歴史、「心理学」の成り立ちについて説明する。 人の感覚・知覚について紹介し、日常場面での物事のとらえ方を学ぶ。
2	10月5日	心の働きについて ―「学習」を中心に―	「学習」にはさまざまな種類がある。 人が物事を学び、修得する経緯について理解を深める。
3	11月2日	自分らしさって何？ どうやって決まるのか	「自分らしさ」とは何か。 性格という視点を中心に、自分について理解を深め、他人との関わりについて考える。
4	11月2日	人と人、集団と集団に 生まれる心理学とは	社会には個人、集団などさまざまな対人関係がある。 対人関係の中で生じる心理的現象について紹介し、人の行動について学ぶ。
5	12月14日	人はどのように 発達・成長するのか	人は一生涯、発達し続けると言われている。 各年代の心理的特徴や心理的課題について理解し、自分にとっての「成長」について考える。
6	12月14日	ストレスとセルフケア	ストレスについて学び、セルフケアについて考える。 震災場面のストレスについても説明する。
7	1月25日	心が持つ自分を守る 機能	心の不調について学び、それを防ぐための心の機能について紹介する。
8	1月25日	最終講義試験	試験
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	法と倫理			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Law & Ethics			総時間数	20	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	水	時 限	5・6

担当教員	中村 薫平	実務者経験	
------	-------	-------	--

学習内容	「法と倫理」と題する本講においては、法の分野では法規範についての一般的理解ならびに日本国憲法における基本的人権の概要について、倫理の分野では近代市民社会および自然権思想の成立過程における思想的背景について、それぞれ講じる。 また、受講生は、各種資格試験の突破ならびに将来の業務遂行および学習のために必須である基本的な文章作成/読解訓練も行う。
到達目標	上記の学習内容について、地方公務員消防職採用試験（初級程度）に合格できる水準の知識の獲得を目標とする。

準備学習 時間外学習	下記の参考書および授業配布資料ならびに自作ノートを講義の事前事後に読了することで、理解度を飛躍的に高めることができる。 また、講義の前後あるいは講義中を問わず、質問は常に歓迎される。
使用教材	東京アカデミー[編]、『オープンセサミシリーズ 国家公務員・地方初級 ①政治・経済・社会』，七賢出版株式会社。 ・授業配布資料
留意点 備 考	本講は、特定の思想的・政治的態度を受講生に強要するものではない。但し、政治に言及する者は、どのような場合であっても彼自身の政治的態度の表明を避けることはできない。その一方で、諸君が将来受験する試験は、国民国家の行政機関によって作成された適格者の選別試験である。したがって、教員は諸君の公務員試験への対策という目的に適うように、現在の日本国政府において支配的な思想的・政治的立場に基づいて講義を行うことに留意されたい。

成績評価	終講義試験
------	-------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	5月20日	法 1 法とは何か	法の基本について学び、以降の講義を理解するための基盤を習得する。
2	5月20日	法 2 日本国憲法の概要	日本国憲法の基本原理を学び、日本国憲法の概要を習得する。
3	6月3日	法 3 基本的人権	基本的人権についての概要を学び、基本的人権の重要性を理解する。
4	6月3日	法 4 裁判制度	司法権や裁判所の在り方について学び、現代社会における裁判制度の重要性を理解する。
5	7月1日	法 5 医療と法	救急救命士にとって重要な医療に関する法を学ぶことで、その意義を理解する。
6	7月1日	倫理 1 倫理とは何か	倫理、倫理学とは何かということを学ぶことで、以降の講義のための基盤を習得する。
7	7月29日	倫理 2 倫理と思想	古代からの哲学・倫理学思想の基礎を学ぶことで、倫理的に考えるための基礎を習得する。
8	7月29日	倫理 3 医療と倫理 1	医療に関わる倫理的問題の中で安楽死や臓器移植などを学ぶことで、医療倫理の基礎を習得する。
9	9月2日	倫理 4 医療と倫理 2	医療現場での倫理的問題を具体的に考察することで、現場での倫理的判断の基礎を習得する。
10	9月2日	終講義試験	法と倫理の両分野について空欄補充および選択式の問題による試験を行う。
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	社会学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Sociology			総時間数	24	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水	時 限	5・6

担当教員	中村 薫平	実務者経験	
------	-------	-------	--

学習内容	労働、消費、社会保障、人口、環境、文化についての基礎を学ぶ。また問題演習を通して公務員試験への対策も行う。
到達目標	公務員・社会人として求められる教養知識を習得するとともに公務員試験地方初級程度で出題される社会学分野の基礎を習得する。

準備学習 時間外学習	下記の教科書の読了するとともに、報道に関心をもっておくこと。
使用教材	『オープンセサミシリーズ国家公務員・地方初級①政治・経済・社会』（七賢出版） および 配布資料
留意点 備 考	講義は配布資料に基づく。講義内で考えてもらう時間を作るので、主体的に参加すること。

成績評価	終講義試験
------	-------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	9月23日	労働問題と消費者問題 1	労働三権と労働三法、および労働に関わる法について学ぶことで、労働関係の基礎を習得する。
2	9月23日	労働問題と消費者問題 2	労働事情について統計などを参照しながら学ぶことで、労働事情についての基礎を習得する。
3	9月30日	現代社会の特質と文化 1	大衆社会・管理社会および情報化社会の諸特徴について説明できる。
4	9月30日	現代社会の特質と文化 2	公共的な意見の形成と民主制との関係について基本的理解を得る。
5	10月28日	ジェンダーとフェミニズム1	ジェンダーとフェミニズムに関する基本的な知識を学ぶ
6	10月28日	ジェンダーとフェミニズム2	ジェンダーとフェミニズムに関する応用的な問題について知る
7	11月18日	国際社会 1	国際社会を構成するの基本的な組織について学ぶ
8	11月18日	国際社会 2	グローバリズムとそれに由来する問題について学ぶ
9	12月9日	国民国家とナショナリズム 1	国民国家とナショナリズムについて、基本的な用語を用いて説明できる。
10	12月9日	国民国家とナショナリズム 2	国民国家とナショナリズムについて、具体的な問題を挙げながら説明できる。
11	2月3日	練習問題への挑戦	これまでの講義を振り返り、過去問や模擬試験から構成された練習問題に挑戦する。
12	2月3日	終講試験	試験は、全問択一式の記号問題で出題される。
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	医療英語			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Medical English			総時間数	15	単 位	1
学 年	1年	学 期	前期	曜 日	月水	時 限	

担当教員	南 雅子	実務者経験	
------	------	-------	--

学習内容	救急救命士としておさえておきたい基礎医療英語(症状名、バイタル、病院各科、身体名、内臓器官、組織、血液、神経、医療略語)の習得と、救急現場で必要な専門用語や救急対応に使う表現などを学ぶ。
到達目標	医療従事者を目指す上で知っておきたい基礎医療英語を習得した上で、救急救命におけるさまざまな英語表現などを使えるようにする。

準備学習 時間外学習	医療英語を学ぶ上での、医療や人体における基礎知識を医療や救急救命の授業できちんと習得しておくことが望ましい。
使用教材	教科書 『MEDICAL ENGLISH COMMUNICATION』(国際教育社) 教材プリント
留意点 備 考	実際の救急救命現場で使えるさまざまな英語資料の提供と使いかたの実践も行う。

成績評価	現場で使う内容や用語の口頭による発表および試験の実施(状況により試験形式の検討あり) 前期末試験80%+口頭試験20%で評価する
------	--

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	5月13日	医療英語 1	授業内容の解説/救急救命関連用語、フレーズ/感染症の最新英語/痛みについて/Ch. 1, 2 受付、病院各科
2	5月27日	医療英語 2	救急現場での用語、対応/Ch. 3 人体の名称、痛みの種類/顔の名称/組織、骨、筋肉 救急救命の現場対応で知っておきたい表現を学び使えるようになることを目標とする。
3	6月1日	医療英語 3	救急救命-事故、災害時の対応/内科、外科問診票/Ch. 4, 5, 6 症状、内臓器官、内科、問診 災害時や事故現場での対応表現及び症状名などを理解し使えるようになることを目標とする。
4	6月10日	医療英語 4	緊急時の対応/病院会話のヒント/Ch. 7, 8 身体測定、内科診察バイタルサイン/多言語問診票 バイタルで使う用語と診療のための表現を使えるようになることを目標とする。
5	6月24日	医療英語 5	トリアージ/救急救命関連資料/Ch. 11救急患者/救急時の対応英会話(リスニング)/Ch. 17薬 救急時の対応英会話のリスニング練習により現場の英語に慣れることを目標とする。
6	7月8日	医療英語 6	救急現場での対応/Ch. 18カルテ/CPR, AEDに使える表現/緊急時の電話対応 救急現場で使う英語の発話練習を目標とする
7	7月22日	医療英語 7	医療英語試験対策学習(救急救命/バイタル/症状/痛み/身体/内臓器官/医療略語/救急疾患) 医療英単語、フレーズの口頭試験による発話機会と定着を目標とする。
8	8月5日	医療英語 8	医療英語試験
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	英会話			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	English Conversation			総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金	時 限	5・6

担当教員	ILC講師(ケビン・リュウジン)	実務者経験	
------	------------------	-------	--

学習内容	ネイティブ講師とのスピーキングやリスニング練習を通じ、日常の様々な場面において自分の伝えたいことを自分の言葉で表現する方法を学ぶ。
到達目標	意見を交換したり自分の考えを表現する場で、的確な英語の文法を使って会話ができるようになる。授業内でのスピーキング・リスニング練習を通して、国際的な環境で相手の話を理解したり自分の意図を伝えることができるようになる。

準備学習 時間外学習	授業を受けるにあたり、中学と高校の英語の復習をしておきましょう。
使用教材	プリント配布
留意点 備 考	受身の姿勢ではなく、自分から発信し、積極的な姿勢で授業に参加する。 基礎英語を楽しく学びましょう。分からない時は遠慮せずに先生に質問する。

成績評価	終講義試験
------	-------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	9月11日	イントロダクション	オリエンテーションとクラスメイトの自己紹介
2	9月11日	Be動詞を使った英会話	“Is…?”と“Are…?” 疑問文と答え・食べ物& 国籍に関する形容詞を学ぶ。
3	9月25日	疑問系(5W1H)を使った英会話	“Where/What/Why…?”を使った疑問文と答え・スポーツに関する形容詞を学ぶ。
4	9月25日	語彙と意見	likeとdislikeを使った自分の感情表現方法を学ぶ。
5	10月9日	語彙と意見2	want toやprefer toを使用して趣味と余暇活動の計画についての表現を学ぶ。
6	10月9日	語彙と意見3	How oftenを使った頻度を尋ねる表現を学ぶ。
7	10月23日	復習	総まとめ
8	10月23日	復習、学期末試験	終講義試験
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	保健・体育学			必修/選択	必修	授業形式	演習
【英】	Health & Physical Education			総時間数	18	単 位	3年間 合わせて1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	5・6

担当教員	植田 英樹	実務者経験	プロバスケットボールチーム西宮ストークス元トレーナー 柔術環太平洋大会Rob William選手金メダル取得時帯同トレーナー ルークス芦屋クリニックパーソナルトレーナー NSフィットネスパーソナルトレーナー 関西健康科学専門学校 非常勤講師（2016～）
------	-------	-------	---

学習内容	体力測定と各測定種目に対する自主トレーニングの理論と実践。
到達目標	就職に関する体力試験に向けて必要な心肺機能、柔軟性、筋力（瞬発力、筋持久力）、アジリティ能力の獲得、又はその能力向上の為の理論や方法について習得する。現時点での各自の体力レベルの把握。

準備学習 時間外学習	授業で学んだ事を各自の時間に自主的にトレーニングをする事が必要。
使用教材	なし
留意点 備 考	なし

成績評価	1stテスト10%+シャトルラン10%+2ndテスト40%+伸び率20%+補正值20%=100%とする。
------	--

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	10月1日	体力テスト(1st) ①	文部科学省の新体力テストを参考に体力テスト実施。 握力（スメドレー式）。 体前屈×2。 上体起こし30秒×1。
2	10月1日	マシン使い方①	トレーニングルームのマシンの使い方の説明。 Q&A。 セルフストレッチ。
3	10月29日	体力テスト(1st) ②	懸垂。 腕立て伏せ（顎を床につける）。（立ち幅跳び）
4	10月29日	マシン使い方②	マシンの使い方、トレーニング方法の詳細を追加説明。 Tabata、懸垂対策等。
5	11月19日	体力テスト③ トレーニング方法基礎	反復横とび（100cm間隔）20秒×2。 20mシャトルラン×1。 基礎的なトレーニングの知識と方法の説明。
6	11月19日	トレーニング理論と実践	効く筋トレ（Concentric Contraction, Eccentric Contraction） 腕立て伏せ、スクワットの正しいフォーム等について。
7	12月10日	体力測定(2nd)	文部科学省の新体力テストを参考に体力テスト実施。 握力（スメドレー式）。 体前屈×2。 上体起こし30秒×1。
8	12月10日	体力測定(2nd)	懸垂。 腕立て伏せ（顎を床につける）。（立ち幅跳び）
9	1月14日	体力測定(2nd)	反復横とび（100cm間隔）20秒×2。
10	1月14日	体力測定(2nd)	Q&Aと希望するトレーニングやその説明やQ&Aを実施。 リクリエーション種目。
11		体育大会	1年次体育大会
12		体育大会	〃
13		体育大会	2年次体育大会
14		体育大会	〃
15		体育大会	3年次体育大会
16		体育大会	〃

救急救命士学科

科目名	総合基礎 I			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Basics			総時間数	26	単 位	総合基礎 I すべてで2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月	時 限	5・6

担当教員	高橋 玲	実務者経験	2007年以降現在に至るまで、複数の大学で、経済学関連の講義を担当（例：「グローバルエコノミー論（関西大学）」、「経済学概論（近畿大学）」、「地域経済特殊講義（大阪産業大学）」など）。
------	------	-------	--

学習内容	基礎的な政治分野の知識を広範囲に学ぶ。
到達目標	・様々な制度について知り、それが成立した要因や、関係する人物なども合わせて理解する。 ・日本国憲法に定められる人権について学び、それぞれの人権の意義や背景を理解する。 ・日本国憲法と、日本の政治制度を学び、日本政治の特徴、他国との違いを改めて明確にする。 ・国際政治について学び、国連を中心とした平和への取り組みを学ぶ。

準備学習 時間外学習	普段から政治経済のニュースや新聞記事等に関心を持つとともに、講義で触れた専門用語や概念などの復習を主体的に行うことが求められる。
使用教材	オープンセサミシリーズ公務員 国家公務員地方初級① 政治・経済・社会（出版社：東京アカデミー）、配布プリント
留意点 備 考	講義を受けるだけではなく、自らその内容を補完するように努めること。

成績評価	期末試験100%
------	----------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	7月13日	民主主義の基本原理と制度 ～政治と民主主義～	・どのようなものを「国家」と呼ぶのか。 ・民主主義の基本的な仕組みについて。
2	9月28日	民主主義の基本原理と制度 ～民主主義の思想～	・基本的人権とは何か。 ・民主主義の成立過程や、関連する出来事や人物について。
3	9月28日	民主主義の基本原理と制度 ～各国の政治制度～	・イギリス、アメリカ、フランス、中国の政治制度について。 ・主要各国はどのような議会、政党制度を採用しているのか。
4	10月12日	日本国憲法の基本原理と基本的人権 ～憲法と日本～	・憲法の歴史や種類について。 ・日本国憲法の基本原理。
5	10月12日	日本国憲法の基本原理と基本的人権 ～基本的人権～	・憲法が認めている基本的人権について。 ・新しい人権について。
6	10月26日	日本国憲法の統治機構 ～日本の政治制度 国会～	・現在の日本の国会制度について。 ・衆議院と参議院の権限の違いや国会議員の活動について。
7	10月26日	日本国憲法の統治機構 ～日本の政治制度 内閣～	・内閣の地位と権限および省庁と大臣について。 ・内閣と国会の関係、内閣と裁判所の関係について。
8	11月30日	日本国憲法の統治機構 ～日本の政治制度 裁判所～	・司法権について。 ・現在の裁判制度について。
9	11月30日	日本国憲法の統治機構 ～日本の政治制度 地方自治～	・地方自治の歴史と、その意義について。 ・地方公共団体の組織や権限について。
10	12月15日	政治の諸問題	・選挙にはどのような原則や方法があるのか。 ・日本の選挙制度の歴史と、問題点について。
11	12月15日	国際政治 ～国際政治の基本～	・世界中の国々は、どのような原理で他国と関わるのか。 ・国際連盟の成立について。
12	1月18日	国際政治 ～国際政治の現在～	・国際連合の歴史について。 ・国際連合の主要機関とその活動内容は何か。 ・戦後の国際情勢について。
13	1月18日	試験	・試験要項は改めて提示。
14			

救急救命士学科

科目名	総合基礎 I			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Basics			総時間数	30	単 位	総合基礎 I すべてで2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	期間中随時	時 限	5・6

担当教員	森田ますみ 植田 重幸	実務者経験	
------	----------------	-------	--

学習内容	自分と自分を取りまく人間関係、社会関係を言語系学習を通して学ぶ。 公務員採用試験の一般知能分野試験、SPI-3方式、SCOA方式に対応できるための、基本事項に関する内容理解とその把握に努める。
到達目標	自分と自分を支える社会を認識し、自分が果たす役割を考え展望する 公務員採用試験の一般知能分野試験、SPI-3方式、SCOA方式に対応できるための、基本を理解できる。

準備学習 時間外学習	日常生活の中で自分の長所・個性を発見し、自覚的に伸ばす努力を続ける
使用教材	文学作品・新聞・雑誌を中心としたプリント教材、テキストSPI3
留意点 備 考	毎時間ごとの小テスト（語彙・文法・音読・読解）と作文・小論文等

成績評価	終講義試験
------	-------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	1月26日	文章とは	様々な種類の文章に触れ、体験する
2	1月26日	文章と自分1	自分自身について、「主・客」の視点から、考える力を鍛える
3	2月1日	文章と自分2	自分自身について、より高い、多様な視点から捉える
4	2月1日	読解力と要約力	文章分析、文法学習、言葉をたどって読解する
5	2月8日	読解力と要約力	読解力と要約力を鍛える、演習
6	2月8日	論理的文章を書く	文章の論理を支える話の筋道と、物事の関連付けが、わかる
7	1月12日	一般教養〔適性〕演習 問題A	A：つるかめ算、B：割合と比 方程式の利用と解法を含めて問題解説並びに演習
8	1月12日	一般教養〔適性〕演習 問題A	同 上 同範囲の問題解説並びに演習
9	1月19日	一般教養〔適性〕演習 問題A	C：濃度算、D：仕事算 重量濃度、体積濃度、モル濃度について
10	1月19日	一般教養〔適性〕演習 問題A	同 上 同範囲の問題解説並びに演習
11	1月21日	一般教養〔適性〕演習 問題A	E：損益算、F：速度算 商品売買、旅人算、通過算への利用
12	1月21日	一般教養〔適性〕演習 問題A	同 上 同範囲の問題解説並びに演習
13	2月2日	一般教養〔適性〕演習 問題A	F：流水算、G：順列・組合せ H：確率 場合の数、和の法則、積の法則、余事象の確率への応用
14	2月2日	一般教養〔適性〕演習 問題A	同 上 同範囲の問題解説並びに演習
15	2月4日	まとめと試験	I：数列 等差数列、階差数列の問題解説並びに演習
	2月4日	試験	

救急救命士学科

科目名	解剖学・生理学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Anatomy・Physiology			総時間数	45	単 位	3
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火木	時 限	5・6

担当教員	稲垣 忍 山本貴啓	実務者経験	稲垣 忍:10年以上、大学で医療従事者の専門基礎教育に携わる 山本貴啓:理学療法士として、総合病院、介護保険施設等で実務経験あり
------	--------------	-------	---

学習内容	細胞から組織、器官系、固体としての人体に至る構造と機能について学習し理解する。
到達目標	救急救命士として必要な解剖生理の基礎知識が理解でき、適切な解剖学用語と生理学用語を用いて具体的に説明できる。

準備学習 時間外学習	レポート課題等
使用教材	救急救命士標準テキスト（上巻）・ヒューマンボディ
留意点 備 考	

成績評価	終講時の筆記試験で60%以上正解すること
------	----------------------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	5月14日	2体表からみる人体76-92	生命現象と人体について学習・理解する
2	6月2日	1人体構成要素 68-75	人体の構成要素である細胞や組織・器官について学習・理解する
3	6月11日	2体表からみる人体76-92	
4	6月16日	5 呼吸系 115-125	呼吸と呼吸運動の仕組みとガス交換について学習・理解する
5	6月30日	6 循環系 126-140	心臓と血管の働きや調節の仕組みについて学習・理解する
6	7月2日	3神経系 93-109	神経の興奮と伝導・末梢神経系について学習・理解する 中枢神経系と脳血管について学習・理解する
7	7月14日	8 泌尿系 156-159	尿の生成と排泄のための構造と仕組みについて学習・理解する 生物の存続の為の構造や機能・発生について学習・理解する
8	7月16日	7 消化系 141-155	消化器の構造と役割について学習・理解する
9	7月28日	12 筋・骨格系 186-191	運動器の構成や構造・仕組みについて学習・理解する
10	8月27日	10 内分泌系 169-173	特に植物機能を制御し維持する液性分子について学習・理解する
11	9月1日	11 血液・免疫系174-185	血液の構成と維持・生体防御に関わる免疫の仕組みについて学習・理解する
12	9月15日	解剖生理試験	
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	生化学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Biochemistry			総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	水	時 限	6

担当教員	辻川和文	実務者経験	
------	------	-------	--

学習内容	生化学では、ヒトの生命現象を元素・分子レベルでの化学的領域と、細胞・個体レベルでの生物学的領域を統合的に幅広く学習する。それにより疾患の成立原因と回復過程を生化学的に理解し、救命救急士としての基礎的知識の習得を目指す。
到達目標	生命維持のための代謝、代謝異常(糖代謝異常、アミノ酸代謝異常、脂質代謝異常)とその疾患について理解できる。ビタミン異常、そのほか電解質異常、栄養障害など理解できる。

準備学習 時間外学習	生物と化学に関する基礎的な事項の予習が必要。復習プリントを用いた授業内容の復習を行う。
使用教材	救急現場の救急医療(薬理学・生化学・栄養学) 荘道社、配布プリント
留意点 備 考	救急救命士標準テキスト 改定第 10版

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	5月13日	生化学 1	総論：生命現象の化学 生体構成成分と代謝、異化系と同化系が説明できる。
2	5月27日	生化学 2	細胞 細胞内小器官の構造と機能が説明できる。
3	6月10日	生化学 3	タンパク質代謝 アミノ酸代謝、窒素平衡とアンモニアの運命、尿中の窒素化合物とその異常について説明できる。
4	6月24日	生化学 4	糖質代謝 糖の種類、解糖反応とエネルギー産生系、糖質代謝障害について説明できる。
5	7月22日	生化学 5	脂質代謝 脂質の種類、脂肪の吸収とβ酸化、脂肪肝と動脈硬化について説明できる。
6	8月5日	生化学 6	酵素、ビタミン 酵素の種類と働き、糖質・脂質・タンパク質代謝異常について説明できる。
7	9月16日	生化学 7	ホルモンと血液 血球細胞とその働き、ホルモンの種類やその働きと疾患、電解質異常について説明できる。
8		試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	病理学・法医学(病理学)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Pathology			総時間数	17	単 位	法医学とあわせて2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	金	時 限	5・6

担当教員	酒井 学	実務者経験	平成18年8月1日から平成20年10月15日まで国立法人神戸大学医学部附属病院中央検査部、平成20年10月16日から現在まで国立法人大阪大学歯学部附属病院検査部にて臨床検査業務を担当している。				
------	------	-------	--	--	--	--	--

学習内容	救急救命士に最低限必要となる基礎医学分野の病理学を学ぶ。						
到達目標	臨床の現場において必須となる病理学の知識の習得を目指す。						

準備学習 時間外学習	病理学と共に解剖学と生理学の平行した学習が必要である。						
使用教材	救急救命士標準テキスト 改定第 10版 出版社（へるす出版） 、配布プリント						
留意点 備 考	毎授業後に小テストを実施。						

成績評価	終講義テストを100%で評価する。						
------	-------------------	--	--	--	--	--	--

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	6月5日	病理学とは？、細胞傷害について	病理学とは何かを説明できる。
2	6月5日	病理学とは？、細胞傷害について	細胞傷害の原因と関連疾患について説明できる。
3	6月19日	先天異常、循環障害について	先天異常原因と関連疾患について説明できる。
4	6月19日	先天異常、循環障害について	循環障害の原因と関連疾患について説明できる。
5	7月3日	炎症、免疫異常について	炎症との原因と関連疾患について説明できる。
6	7月3日	炎症、免疫異常について	免疫異常の原因と関連疾患について説明できる。
7	7月31日	感染症、腫瘍について	感染症との原因と関連疾患について説明できる。
8	7月31日	感染症、腫瘍について	腫瘍の原因と関連疾患について説明できる。
9	9月4日	試験	期末テスト
10			
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	病理学・法医学(法医学)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Forensic Medicine			総時間数	13	単 位	病理と合わせて1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	水	時 限	5・6

担当教員	石田 季子	実務者経験	2016年4月より 大阪大学法医学教室特任助教、大阪府監察医事務所監察医として実務経験
------	-------	-------	--

学習内容	人体が死によってどのように変化するのか、原因ごとにどのような所見が見られるのかを学習する。また、死にまつわる公衆衛生的事項についても概説する。
到達目標	疾病や損傷などが人体の限界を超えて作用した、普遍的で不可逆で不可避な状態が死であるため、医療の場においてはいつでも遭遇する。法医学的知識の修得により、プロフェッショナルとして死者を遇することができるようになることが目標である。

準備学習 時間外学習	テキストを読んでおくこと。解剖学・救急医学などの復習がなされているとなおよい。
使用教材	救急救命士標準テキスト 改定第 10版、そのほかに適宜ハンドアウトを配布する。
留意点 備 考	科目の性質上講義資料や話題にセンシティブな事柄が含まれるため、学生にも医療人としての倫理と守秘を求める。

成績評価	終講義試験により評価する。
------	---------------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	6月17日	死とはなにか	死の定義や統計に見られる死の状況を知り、現代日本における死とのかかわり方を学ぶ
2	6月17日	死体現象	生体にはみられず、死体にはみられる所見について学ぶ
3	7月15日	内因性急死・中毒	疾病による死の中でも急死、薬毒物による中毒について学ぶ
4	7月15日	損傷	人体が外部からの力を受けることで発生する傷害と、それにより引き起こされる結果を学ぶ
5	9月9日	環境と死	温度変化など、周囲の環境による死や大規模災害による死について学ぶ
6	9月9日	試験	
7	COVID-19のため中止	行政解剖	行政解剖見学
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	微生物学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Microbiology			総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	金	時 限	5・6

担当教員	酒井 学	実務者経験	平成18年8月1日から平成20年10月15日まで国立法人神戸大学医学部附属病院 中央検査部、平成20年10月16日から現在まで国立法人大阪大学歯学部附属病院 検査部にて臨床検査業務を担当している。
------	------	-------	--

学習内容	救急救命士に最低限必要となる基礎医学分野の微生物学を学ぶ。
到達目標	臨床の現場において必須となる微生物学の知識の習得を目指す。

準備学習 時間外学習	前期の生理学や病理学の復習が必要である。
使用教材	テキスト（救急救命士標準テキスト）出版社（へるす）、配布プリント
留意点 備 考	毎授業後に小テストを実施。期末テストを100%で評価する。

成績評価	
------	--

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	10月2日	微生物とは？、感染症について	微生物とは何かを説明できる。
2	10月2日	微生物とは？、感染症について	感染症の原因と関連疾患について説明できる。
3	11月6日	感染予防について	微生物の取り扱いと使用する器具の説明ができる。
4	11月6日	感染予防について	微生物の取り扱いと使用する消毒液の説明ができる。
5	12月4日	微生物各論（細菌、ウイルス、寄生虫）	各種微生物（細菌、ウイルス）に関連する疾患について説明できる。
6	12月4日	微生物各論（細菌、ウイルス、寄生虫）	各種微生物（寄生虫）に関連する疾患について説明できる。
7	1月8日	まとめ	これまでの授業内容の復習。
7.5	1月8日	試験	期末テスト
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			

救急救命士学科

科目名	薬理学			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Pharmacology			総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	5, 6

担当教員	岩木一巳	実務者経験	
------	------	-------	--

学習内容	薬理学とは薬物が身体に及ぼす影響（主作用・副作用）やその作用発現メカニズムを研究する学問であることを学ぶ。救急救命士を目指す者として、取り扱いに関する薬物のみならず、医療の分野で広く用いられる「薬」の知識を基礎から応用まで幅広く学習する。
到達目標	国家試験合格のレベルに留まらず、薬理作用、薬物療法についての一般的基礎知識を広く修得させ、救急現場で専門職としての実力を発揮できる救急救命士を育成する。

準備学習 時間外学習	事前および時間外の学習として、教本、資料概要プリント、補足説明資料等に目を通し、興味を持ったことや分からないところはインターネットや関連参考書を用いて調べる等、薬の作用に関する予習、復習を行うこと。
使用教材	テキスト（救急救命士標準テキスト：へるす出版） 理解力向上のため、自作の講義概要プリント、補足説明資料、確認問題を配布。
留意点 備 考	必ず、毎回の授業後に確認問題を用いた自身の理解度をきっちり評価すること、さらに、教本や配布資料を読み返して、授業内容を振り返ることが望ましい。また、必要に応じて、参考書（救急現場の救急医療：荘道社、新ステップアップ 救急救命士国家試験対策 薬理作用：へるす出版）にも目を通すこと。

成績評価	期末の筆記試験（資料持ち込み不可）で評価する。
------	-------------------------

回	月 日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	5月11日	薬物総論	薬理学と薬物、医薬品に関する説明、薬機法、薬理作用の発現様式、保存と保守管理
2	5月11日	薬理作用の作用機序	薬物が作用を発揮する仕組み
3	5月25日	薬物の投与経路と剤型	薬物の投与剤型、薬物の血中濃度・体内濃度（薬物血中濃度時間曲線）、各投与方法の利点と欠点
4	5月25日	薬物作用への影響要因	用量作用関係（用量－作用曲線）と影響因子
5	6月8日	薬物の体内動態(1)	薬物動態（ADME）、吸収・分布・代謝・排泄の詳細
6	6月8日	薬物の体内動態(2)	上記内容の継続、薬物動態の変動要因
7	6月22日	薬物の有害作用(1)	薬物使用時の各種有害作用についての説明
8	6月22日	薬物の有害作用(2)	反復投与に関係する問題点、研究開発段階で得られる有害情報
9	7月6日	救急救命士が取扱に関与する薬物(1)	消毒薬、輸液・輸血製剤
10	7月6日	救急救命士が取扱に関与する薬物(2)	アドレナリン、乳酸リンゲル液、ブドウ糖
11	7月20日	アドレナリンと自律神経系用薬	アドレナリンを中心としたカテコールアミンや自律神経系に作用する薬物の概説
12	7月20日	心臓・循環器系作用薬	心臓・循環器系に障害が起こる病態と治療薬、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）について
13	8月3日	使用頻度の高い常用薬、諸症状に用いられる薬物(1)	使用頻度の高い常用薬、様々な疾患に対して用いられる薬物
14	8月3日	使用頻度の高い常用薬、諸症状に用いられる薬物(2)	使用頻度の高い常用薬、様々な疾患に対して用いられる薬物 講義全体的内容（No. 1～14）の振り返り、重要ポイントの説明
15	8月31日	期末試験	自習時間を設けた後に筆記試験（50分）を実施

救急救命士学科

科目名	公衆衛生学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Public Health			総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金	時 限	5・6

担当教員	谷 康平	実務者経験	
------	------	-------	--

学習内容	健康の保持、予防医学の重要性を認識し公衆衛生分野について学ぶ。
到達目標	国家試験に出題される分野は勿論、救急救命士として必要な知識を習得できる。

準備学習 時間外学習	テキストの用語の読み方や意味を調べておく。重要なキーワードについてまとめてみる。 受講後に復習と自己学習をする。
使用教材	救急救命士標準テキスト 改定第 10版
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	10月16日	公衆衛生とは	第42回国家試験について／保健統計・人口動態統計・死亡原因
2	10月16日	感染症	感染症法・学校保健安全法
3	11月13日	社会保障制度	医療保険 医療経済
4	11月13日	〃	高齢者保健
5	11月27日	〃	母子保健 栄養・食品保健
6	11月27日	環境	4大公害 地球規模の環境問題
7	12月18日	〃	国際保健 地域保健 疫学／予防医学
8	12月18日		全体のまとめ と試験
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	社会保障・社会福祉			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Social Security・Social Welfare			総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火	時 限	5・6

担当教員	中川 るみ	実務者経験	社会福祉士 1993-現在、ソーシャルワーカーとして実務を経験 社会福祉事務所所長
------	-------	-------	--

学習内容	社会福祉と医療、社会保障の関連について学ぶ 社会福祉の展開、低所得者対策、障害者福祉対策、年金制度について
到達目標	救急救命士に必要な社会福祉と医療、社会保障の関連について理解できる。

準備学習	授業で習ったことの復習をしておく。
時間外学習	重要なキーワードについてまとめていく。練習問題の実施。
使用教材	救急救命士標準テキスト 改定第 10版
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	5月12日	社会保障について	各社会保険の種類（人口資料）
2	5月12日	〃	〃
3	6月9日	社会保険について	理念と仕組み等（いのち）
4	6月9日	〃	〃
5	7月7日	社会福祉について	制度と運用（ヘレン・ケラー）
6	7月7日	〃	〃
7	9月8日	まとめ	これまで習ったことの再確認
8	9月8日	終講義試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	専門基礎分野総括			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Brushing up of the Specialized Basic Field			総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日		時 限	

担当教員	奥元隆昭 矢野博之	実務者経験	18年の消防経験 (H8. 救急救命士) 3年の消防経験 (H10. 救急救命士) その後、看護師として12年の臨床経験 (H20. 看護師)
------	--------------	-------	--

学習内容	専門基礎分野における授業及び模擬試験
到達目標	専門基礎分野について、復習と仕上げができ、総合的な判断力を習得する

準備学習 時間外学習	講義とグループワークを通して専門基礎の総復習をする。 事前に分野の受講範囲を予習しておくことが望ましい。
使用教材	救急救命士 標準テキスト 109版 出版社（へるす出版） 配布プリント 演習問題
留意点 備 考	

成績評価	終講時の筆記試験で60%以上正解すること
------	----------------------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	12月11日	解剖生理	神経系、呼吸器系
2	12月11日	解剖生理	循環器系
3	12月24日	解剖生理	内分泌系
4	1月7日	病理学	退行性病変
5	1月20日	病理学	進行性病変
6	1月27日	微生物学、生化学	感染症 内分泌異常
7	2月6日	法医学、薬理学	損傷 救急救命処置に用いられる薬剤
8	2月10日	まとめと試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	救急医療Ⅰ（概論）			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Emergency Medical Philosophy			総時間数	11	単 位	救急医療Ⅰ すべてで3
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火金	時 限	5・6

担当教員	太田 宗夫	実務者経験	医師、元千里救命救急センター所長 救急医療に40年以上携わる
------	-------	-------	-----------------------------------

学習内容	救急医学の本質・医学の発達、生命倫理と医の倫理などの基本的な考え方を学ぶ
到達目標	救急隊員としての社会的な責務について具体的に列挙できる。 日常的な業務について倫理的な意義を列挙できる。 業務の内容について傷病者・家族に分かりやすい説明が出来同意を得ることが出来る。

準備学習 時間外学習	講義で学んだことの復習及び重要キーワードについてまとめておく。
使用教材	救急救命士標準テキスト改定第10版、プリント資料
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	6月26日	1. 医学と歴史	学問の本質と医学、自然科学と人文科学、自然科学的思考、医学概論という学問、医療と医学の歴史的背景、医学の体系化、現代の医学系列、医療と病気
2	6月26日	2. 救急医療と救急医療体制	救急医療、救急医学とは、現代救急医療体制の概略、救急医療の対象、病院前救護とは、救急医療を医学的に保障するための構造、救命士業務の拡大と高度化、救命士の役割、救命士の責任など
3	7月10日	3. 医の倫理	医療者の倫理と生命倫理、医療者倫理の歴史、Ⅱ. 生命倫理、医学進歩と生命倫理、「生活の質」と「生命の質」、人の死に関する倫理論議とLiving will、病院倫理規定と倫理委員会、厳格になったInformed Consent、終末期医療、尊厳死と安楽死、尊厳を保持した死を実施する場合について
4	7月10日	症例について	救急医療汎用専門英語、スライドを見ながら症例について学ぶ
5	7月21日	まとめ	テスト範囲の総まとめ
6	7月21日	終講義試験	
7			
8			
9			
10			

救急救命士学科

科目名	救急医療Ⅰ（Ⅰ）			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Emergency Medical Treatment			総時間数	12	単 位	救急医療Ⅰ すべてで3
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火	時 限	5・6

担当教員	呉 教東	実務者経験	日本救急医学会専門医・指導医として実務経験 評議員（前）：日本救急医学会・日本臨床救急医学会・日本脳神経外傷学会
------	------	-------	---

学習内容	救急医療の意義や救急医療体制、災害医療、メディカルコントロール、プレホスピタルケアとは何かを理解する。
到達目標	・現在の救急医療体制について説明できる。・災害医療特有の救急活動、行動規範について学ぶ。・最新の救急蘇生法を習得する。 ・病院前救護、メディカルコントロールの考え方につき学ぶ。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト、ほか。
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験
------	------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	10月13日	救急医療体制	病院前医療、令和元年度版 救急・救助の現況
2	10月13日	救急医療体制	救急医療システム（一般、周産期、精神科、小児救急医療体制）、救急医療情報（救急医療情報センター、救急安心センター）
3	11月17日	災害医療体制	災害の概念、多数傷病者に対する対応、トリアージについて
4	11月17日	災害医療体制	災害に関連する法的骨格は、特殊災害とは
5	12月1日	病院前医療体制	救命の連鎖、救急蘇生法（ガイドライン2015）について、メディカルコントロールとは
6	12月1日	試験	終講義試験
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	救急医療Ⅰ(Ⅱ)			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Emergency Medical Treatment			総時間数	11	単 位	救急医療Ⅰ すべてで3
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月火	時 限	5・6

担当教員	奥元隆昭	実務者経験	18年の消防経験(H8. 救急救命士)
------	------	-------	---------------------

学習内容	救急救命士として、消防機関における救急活動の基本及び流れを学習する。
到達目標	救急救命士に関連する法令、救急救命士の役割や責任を理解した上で、通信指令室の役割や救急活動の流れを理解し説明できる知識を身につける。また、救急救命士としての生涯教育についても理解し説明できる知識を身につける。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読と予習復習プリントの配布
使用教材	救急救命士 標準テキスト第10版（へるす出版） PPT資料
留意点 備 考	

成績評価	五肢択一若しくは択二の問題25問の筆記試験で評価する。
------	-----------------------------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	5月18日	消防機関における救急活動の流れ	救急業務とは何か。その定義、基本原則及び対象等を理解する。
2	5月18日	消防機関における救急活動の流れ	救急活動の基本（覚知から帰署後の書類作成まで）を理解しイメージする。
3	6月15日	救急救命士の役割と責任	救急救命士の役割と責任を理解しイメージする。
4	6月15日	救急救命士に関連する法規	救急救命士に関する法規、消防関係法規等を理解し、消防の職務をイメージする。
5	7月13日	救急救命士の養成と生涯教育	救急救命士の養成と生涯教育について理解しイメージするとともに、救急救命士の将来について考える。
6	7月17日	まとめと試験	
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	救急医療Ⅰ（医用電子工学）			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Medical Electronic Engineering			総時間数	11	単 位	救急医療Ⅰ すべてで3
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水	時 限	5

担当教員	藤江 建朗	実務者経験	約14年臨床工学技師として病院での経験
------	-------	-------	---------------------

学習内容	救急分野で使用するME機器の基本原理・基本操作・安全性について学ぶ
到達目標	・ 医用機器の特性について理解でき、安全に使用する事とは何か、について理解できる。 ・ 救急救命士が使用するであろう医用機器、特に救急車に搭載されている人工呼吸器、モニター、半除細動器の原理、使用方法、使用上の注意点について理解することができる。

準備学習 時間外学習	講義で学んだことの復習
使用教材	プリント資料
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	10月7日	医療機器の特性、故障率について理解する	板書とテキストを中心に講義を進めていく。写真や動画など、必要に応じて、適宜スライドを使用する。
2	10月21日	モニターに表示される心電図、血圧、SpO2、ETCO2の計測原理、アラームの考え方について理解できる。	板書とテキストを中心に講義を進めていく。写真や動画など、必要に応じて、適宜スライドを使用する。また、必要に応じて、SpO2センサを使用して、原理について理解を深める。
3	11月4日	除細動の必要な不整脈が理解でき、細動と頻拍の発生、除細動の原理、除細動を行う時の注意点について理解することができる。	板書とテキストを中心に講義を進めていく。写真や動画など、必要に応じて、適宜スライドを使用する。また、必要に応じて、AEDパッドを使用して、貼付場所や貼付時の注意点、除細動が有効に行える場所についても理解できるように進めていく。
4	11月25日	人工呼吸器を使用する目的、人工呼吸器の原理、使用方法、設定の意味、モード、使用上の注意点が理解できる。	板書とテキストを中心に講義を進めていく。写真や動画など、必要に応じて、適宜スライドを使用する。また、実際の人工呼吸器回路を用いて、高圧・低圧アラームの考え方を理解する。
5	12月16日	人工呼吸器を使用する目的、人工呼吸器の原理、使用方法、設定の意味、モード、使用上の注意点が理解できる。また、酸素ボンベの取り扱いについて理解する。	板書とテキストを中心に講義を進めていく。写真や動画など、必要に応じて、適宜スライドを使用する。また、実際の人工呼吸器回路を用いて、高圧・低圧アラームの考え方を理解する。また、酸素ボンベの取り扱いについて理解でき、残量計算や交換方法について理解する。
6	1月13日	試験	
7			
8			
9			

救急救命士学科

科目名	観察・判断			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Observation・Decision			総時間数	20	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水	時 限	5・6

担当教員	岡崎 智	実務者経験	医師、約18年、大学病院等で臨床経験
------	------	-------	--------------------

学習内容	救急患者に対しての全身および局所の観察、緊急度重症度の判断とその対応を習得。
到達目標	適切な観察は、その後の適切な判断・処置には欠かせないものであり、それが重症度緊急度判断、病院選定、患者の予後に直接かわってきます。適切な観察をするための方法とそれによって診られる徴候の意味が理解できることを目標とします。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト 及びプリント資料など
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	10月14日	傷病者の観察	・観察の目的と意義、観察の方法・全身状態の観察
2	10月14日	傷病者の観察	・バイタルサイン、外見、気道、呼吸、循環、神経の各所見とその意味について学習
3	11月11日	傷病者の観察	・局所の観察
4	11月11日	傷病者の観察	・皮膚、頭部・顔面・頸部、胸部、腹部、四肢の各所見とその意味について学習
5	12月2日	傷病者の観察 重症度緊急度	・緊急度・重症度判断とその意義について学習
6	12月2日	傷病者の観察 重症度緊急度	・緊急度・重症度判断とその意義について学習
7	12月23日	傷病者の観察	・資器材による観察（・パルスオキシメーター ・カプノメーター ・聴診器 ・血圧計 ・心電図モニター ・体温計 ・血糖測定器）
8	12月23日	傷病者の観察	・資器材による観察（・パルスオキシメーター ・カプノメーター ・聴診器 ・血圧計 ・心電図モニター ・体温計 ・血糖測定器）
9	1月6日	まとめ	・まとめ（国家試験問題）
10	1月6日	試験	・終講義試験
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	処置			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Treatment			総時間数	36	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火	時 限	5・6

担当教員	呉 教東	実務者経験	日本救急医学会専門医・指導医として実務経験 評議員（前）：日本救急医学会・日本臨床救急医学会・日本脳神経外傷学会
------	------	-------	---

学習内容	救急救命処置ならびに在宅療養者に対する処置について、その概念、目的、適応、手技、評価、合併症、留意点などを理解し、実施できるようにする。
到達目標	①各救命救急処置の目的、適応、禁忌、手技、合併症について学習する。 ②在宅療法中の傷病者に対し、発生し得る急性の問題点につき、その対処法を学習する。 ③傷病者に対する安全で確実な搬送法について学習する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト改定第9版または10版
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験
------	------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	9月29日	救急救命士が行う処置 (呼吸関連)	・処置の目的と意義 ・気道確保 (手手的、エアウェイ) ・気道異物除去(手手的、器具)
2	9月29日	救急救命士が行う処置 (呼吸関連)	・口腔内吸引 ・声門上気道デバイスを用いた気道確保 (LMA, LT, 他)
3	10月6日	救急救命士が行う処置 (呼吸関連)	・気管挿管・気道確保のデモンストレーション
4	10月6日	救急救命士が行う処置 (呼吸関連)	・気管吸引
5	10月20日	救急救命士が行う処置 (呼吸関連)	・酸素投与(カニューレ、マスク、他)と合併症
6	10月20日	救急救命士が行う処置 (呼吸関連)	・人工呼吸(呼気吹込み、BVM、人工呼吸器)
7	10月27日	救急救命士が行う処置 (循環関連)	・胸骨圧迫(手手的、自動心マッサージ器)
8	10月27日	救急救命士が行う処置 (循環関連)	・除細動(マニュアル、半自動式、AED)
9	11月10日	救急救命士が行う処置 (循環関連)	・静脈路確保と輸液
10	11月10日	救急救命士が行う処置 (循環関連)	・各種薬剤の投与(アドレナリン、自己注射用アドレナリン、ブドウ糖)
11	11月24日	救急救命士が行う処置 (その他)	・体位管理(種類・適応・方法) ・体温管理(保温、冷却)
12	11月24日	救急救命士が行う処置 (その他)	・止血(直接圧迫・止血点圧迫・止血帯止血法) ・創傷処置
13	12月8日	救急救命士が行う処置 (その他)	・固定(種類、方法)
14	12月8日	救急救命士が行う処置 (その他)	・産婦人科領域の処置
15	12月22日	救急救命士が行う処置 (その他)	・在宅療法中の傷病者の処置(在宅酸素療法、在宅人工呼吸、気管切開、植込み型ペースメーカー、経管栄養、血液透析、腹膜透析、尿道カテーテル、人工肛門)
16	12月22日	救急救命士が行う処置 (その他)	・傷病者搬送
17	2月9日	まとめ	・処置まとめ
18	2月9日	試験	・終講義試験

救急救命士学科

科目名	検査学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Clinical Examination			総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	期間中随時	時 限	5・6

担当教員	朝日 佳代子 児嶋 嵩 笹井 正思	実務者経験	【朝日 佳代子】 1994年4月～ 大阪大学医学部附属病院 臨床検査部に所属 日常業務にて生理検査担当、当直業務にて輸血・血液検査経験 【児嶋 嵩】 2013年4月～2015年3月 大阪大学医学部附属病院 医療技術部検査部門に所属 2015年4月～現在 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センターにて救急検査業務に従事 【笹井 正思】 1990年7月より大阪大学歯学部附属病院歯科放射線科（2007年より放射線科）に勤務し放射線診療に従事、現在に至る。
------	-------------------------	-------	--

学習内容	検査学における、生理機能検査・血液検査・輸血検査について基礎的な内容を学ぶ。 救急医療における各臨床検査項目の目的、種類、検査データの評価方法を学ぶ。 単純エックス線撮影法、CT検査法、MRI検査法、血管造影法（Digital Subtraction Angiography）、内視鏡、核医学検査といった各種画像診断法の原理と特徴、適応疾患につき、画像を供覧しながら解説する。
到達目標	生理機能・血液（止血）・輸血検査について基礎的な内容の理解。救急救命士国家試験に対応可能なレベルへの到達。 救急救命士標準テキストに記載されている各臨床検査項目の臨床的意義や検査データの診方を理解し、医療スタッフとの情報交換・救急医療に役立てる。 各種画像診断法の利点、欠点を説明できる。

準備学習 時間外学習	前期開講の「解剖学・生理学」の知識を前提に、各種画像ではどのように描出されるかを供覧する。
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第10版 出版社（へるす出版）、スライドによる講義・配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	選択式問題で評価
------	----------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	10月8日	検査学1	臨床検査総論・一般検査【各臨床検査の目的・種類と検査結果の見方、および一般検査について】 臨床検査の目的や種類、検査データの診方が理解できる。一般検査の種類や臨床的意義が理解できる。
2	10月8日	生理機能	心電図検査、肺機能検査、脳波検査について説明。 主な症例における心電図波形、肺機能検査における主な臨床評価を理解する。
3	10月22日	画像診断学	内容：単純X線撮影、CT、MRI、超音波、血管造影、内視鏡、核医学検査につき概説する 目標：各種画像検査法の特徴（利点、欠点）を説明できる。
4	10月22日	検査学2	生化学・血液ガス検査【生化学検査の臨床的意義・基準範囲・パニック値、および血液ガス検査について】 主な生化学検査項目の臨床的意義、基準範囲、パニック値が理解できる。また、血液ガス検査における酸素化や換気、酸塩基平衡の基本的な診方が理解できる。
5	11月5日	血液	形態を含めた血液検査、止血検査について説明。 主な血液疾患と血液検査項目との関連について理解する。
6	11月5日	検査学3	微生物検査【微生物検査項目の臨床的意義や検査の流れについて】 微生物検査の臨床的意義、および医療従事者となるうえで知っておくべき主な病原微生物が理解できる。
7	12月17日	輸血	輸血検査について説明。 血液型・輸血検査の判定方法、輸血副作用について理解する。
8	12月24日	試験	終講義試験

救急救命士学科

科目名	放射線医学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Radiology			総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	木	時 限	5・6

担当教員	笹井 正思	実務者経験	1990年7月より大阪大学歯学部附属病院歯科放射線科（2007年より放射線科）に勤務、放射線診療に従事し現在に至る。
------	-------	-------	--

学習内容	臨床で用いられる電離放射線の基礎的事項と生物への影響、放射線防護等の一般的な放射線学的知識と、それを基として放射線障害要救護者対応・緊急被曝医療を学ぶ
到達目標	放射線の一般的知識を基に、放射線事故時の区域管理・スクリーニング・除染処置等の対応と緊急被曝医療体制の概要を理解する

準備学習 時間外学習	放射線物理学に関しては原子の構造・電離作用等の物理学的知識を、放射線生物学に関しては生体中でのDNAの役割等の生物学的知識を、放射線影響学に関しては組織の構造等の解剖学知識を、各々要する。前期開講の当該科目関連事項の復習が望まれる
使用教材	救命救急士テキスト（ヘルス出版） 配布プリント
留意点 備 考	環境省が公開している「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料 平成30年度版」の閲覧を推奨いたします

成績評価	期末試験で評価する
------	-----------

回	月 日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	10月15日	放射線医学概説 放射線の利用	内容：暮らしや産業のなかでの放射線利用を解説する。目標：放射線利用法から放射線の各種の性質を説明できる。放射線施設は多様で身近に存在し、救急活動現場となりうることを理解する。
2	10月15日	放射線の基礎知識	内容：放射性壊変と、放射線の種類について学ぶため、原子模型や崩壊形式について解説する。 目標：放射線の種類、分類とその性質につき説明できる。
3	11月12日	放射線物理学	内容：放射線の一般的性質について解説する。目標：放射線、放射能、放射性同位元素の意味を説明できる。放射線に関わる単位（ベクレル・グレイ・シーベルト）について説明できる。
4	11月12日	放射線生物学	内容：放射線の生物学的影響の発現機序と効果、放射線感受性について解説する。 目標：確率的影響と確定的影響（組織反応）の差異を説明できる。
5	12月3日	放射線被曝と防護	内容：ICRPによる放射線防護の基本的な考え方を解説する。目標：対象者による被曝の区分（職業被曝・公衆被曝、医療被曝）、各種被曝様式（内部被曝と外部被曝）について説明できる。
6	12月3日	放射線事故時の対応	内容：一連の放射線事故対応尾（線量測定、汚染拡大防止、区域管理）について解説する。 目標：時間、距離、遮蔽等の外部被曝への防護法と、区域管理の要点を説明できる。
7	12月17日	緊急被曝医療体制 まとめ	内容：被曝事故傷病者に関わる一般的事項と緊急被曝医療体制について解説する。 目標：重度の被曝に関連して傷病者に現れうる症状等について、説明できる。
8	1月7日	試験	後期試験
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

救急救命士学科

科目名	シミュレーション実習 I			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Simulation Training			総時間数	270	単 位	6
学 年	1	学 期	通年	曜 日	期間中随時	時 限	5・6

担当教員	奥元隆昭 矢野博之	実務者経験	18年の消防経験 (H8. 救急救命士) 3年の消防経験 (H10. 救急救命士)、その後看護師として12年の臨床経験 (H20年. 看護師)
------	--------------	-------	--

学習内容	救急救命士に必要な基礎を学ぶ。
到達目標	救急救命士に必要な基礎を学び、想定訓練に繋げられるようになる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第10版 出版社 (へるす出版)、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	BLS、救急救命処置 I は試験を行う。
------	----------------------

回	月日	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1		規律訓練	アンケート 規律訓練の目的、停止間、行進間
2		規律訓練	アンケート 規律訓練の目的、停止間、行進間
3		4つの習慣	キャリア教育の一環として、夢を実現する為の4つの習慣について
4		4つの習慣	グループワーク
5		規律訓練	停止間、行進間
6		規律訓練	停止間、行進間
7		規律訓練	停止間、行進間
8		規律訓練	停止間、行進間
9		規律訓練	停止間、行進間
10		規律訓練	停止間、行進間
11		規律訓練	停止間、行進間
12		規律訓練	停止間、行進間
13		規律訓練 固定処置	停止間、行進間 三角巾法
14		規律訓練 固定処置	停止間、行進間 三角巾法
15		リバーレスキュー	リバーレスキュー講義
16		リバーレスキュー	リバーレスキュー講義
17		固定処置	三角巾法、止血法

18		固定処置	三角巾法、止血法
19		固定処置	骨折の処置
20		固定処置	骨折の処置
21		固定処置 搬送法	骨折の処置 徒手搬送
22		固定処置 搬送法	骨折の処置 徒手搬送
23		搬送法	布担架、スクープストレッチャー
24		リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
25		リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
26		リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
27		リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
28		搬送法	メインストレッチャー
29		搬送法	メインストレッチャー
30		搬送法	メインストレッチャー
31		搬送法	メインストレッチャー
32		搬送法	その他の搬送法
33		搬送法	その他の搬送法
34		搬送法	その他の搬送法
35		搬送	救急車搬入及び搬出、保温法
36		搬送	救急車搬入及び搬出、保温法
37		BLS	JWEB導入、BLS導入
38		BLS	JWEB導入、BLS導入
39		BLS	シミュレーション
40		BLS	シミュレーション
41		BLS	シミュレーション
42		BLS	シミュレーション
43		BLS	シミュレーション
44		BLS	シミュレーション
45		BLS	シミュレーション
46		BLS	シミュレーション
47		BLS	効果測定

48		BLS	効果測定
49		観察	意識、呼吸、脈拍
50		観察	意識、呼吸、脈拍
51		観察	資器材観察(聴診)
52		観察	資器材観察(聴診)
53		観察	血圧、その他
54		観察	血圧、その他
55		観察	神経所見、触診
56		観察	神経所見、触診
57		訓練参加	合同訓練
58		訓練参加	合同訓練
59		訓練参加	合同訓練
60		訓練参加	合同訓練
61		救急救命処置 I	模試解説
62		救急救命処置 I	資器材の確認
63		救急救命処置 I	資器材の確認
64		観察	心電図導入
65		観察	心電図導入
66		観察	心電図導入
67		観察	心電図装着
68		観察	心電図装着
69		救急救命処置 I	異物除去説明 用手的異物除去
70		救急救命処置 I	喉頭鏡の使用法
71		救急救命処置 I	喉頭鏡の使用法
72		救急救命処置 I	喉頭鏡の使用法
73		救急救命処置 I	喉頭鏡の使用法
74		救急救命処置 I	器具を用いた異物除去
75		救急救命処置 I	吸引器の使用法
76		救急救命処置 I	吸引器の使用法
77		救急救命処置 I	用手的気道確保 器具を用いた気道確保

78		救急救命処置Ⅰ	用手的気道確保 器具を用いた気道確保
79		救急救命処置Ⅰ	呼吸管理セットの説明
80		救急救命処置Ⅰ	呼吸管理セットの説明
81		救急救命処置Ⅰ	BVMの使用法
82		救急救命処置Ⅰ	BVMの使用法
83		ロープ結索	ロープ結索
84		ロープ結索	ロープ結索
85		消防研修	プレホスピタルセミナー見学参加
86		消防研修	プレホスピタルセミナー見学参加
87		体力練成	トレーニング資器材の使用説明受講
88		体力練成	消防の体力試験に向けての練成方法
89		救急救命処置Ⅰ	状況評価 初期評価
90		救急救命処置Ⅰ	状況評価 初期評価
91		救急救命処置Ⅰ	状況評価 初期評価
92		救急救命処置Ⅰ	状況評価 初期評価
93		SPIテスト	SPIテスト
94		SPIテスト	SPIテスト
95		救急救命処置Ⅰ	徽章授与式訓練見学
96		救急救命処置Ⅰ	徽章授与式訓練見学
97		救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
98		救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
99		救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
100		救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
101		救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
102		救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
103		救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
104		救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
105		救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
106		救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
107		救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練

108		救急救命処置 I	シミュレーション訓練
109		救急救命処置 I	シミュレーション訓練
110		救急救命処置 I	シミュレーション訓練
111		救急救命処置 I	効果測定
112		救急救命処置 I	効果測定
113		救急救命処置 I	効果測定
114		救急救命処置 I	シミュレーション訓練
115		救急救命処置 I	シミュレーション訓練
116		JPTEC	JPTEC導入
117		JPTEC	JPTEC導入
118		JPTEC	脊椎運動制限
119		JPTEC	脊椎運動制限
120		訓練参加	メディカルラリー
121		訓練参加	メディカルラリー
122		訓練参加	メディカルラリー
123		訓練参加	メディカルラリー
124		BLS	CPR講習導入
125		BLS	CPR講習導入
126		BLS	CPR講習 (AMT)
127		BLS	CPR講習 (AMT)
128		BLS	CPR講習 (JT)
129		BLS	CPR講習 (JT)
130		JPTEC	導入講義
131		JPTEC	導入講義
132		JPTEC	車外救出
133		JPTEC	車外救出
134		模擬試験	第6回模擬試験
135		模擬試験	第6回模擬試験

救急救命士学科

科目名	総合救急医療 I			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine			総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	通年	曜 日	期間中随時	時 限	5・6

担当教員	奥元隆昭 矢野博之	実務者経験	18年の消防経験 (H8. 救急救命士) 3年の消防経験 (H10. 救急救命士)、その後看護師として12年の臨床経験 (H20年. 看護師)
------	--------------	-------	--

学習内容	これまでに学んだことを模擬試験で出題する。
到達目標	国家試験に合格できる知識を身につける。

準備学習 時間外学習	これまでに学んだことを自己学習する。
使用教材	
留意点 備 考	

成績評価	
------	--

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	模擬試験	第1回模擬試験
2	模擬試験	第2回模擬試験
3	模擬試験	第3回模擬試験
4	模擬試験	第3回模擬試験
5	模擬試験	第4回模擬試験
6	模擬試験	第4回模擬試験
7	模擬試験	第5回模擬試験
8	模擬試験	第5回模擬試験
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		